

ユニット型地域密着型特別養護老人ホーム 川場春光園 ユニット型指定短期入所生活介護事業運営規程

第1章 事業の目的及び運営方針等

(目的)

第1条 社会福祉法人ほたか会が運営するユニット型地域密着型特別養護老人ホーム川場春光園が行うユニット型指定短期入所生活介護の事業の適正な運営を確保するために人員及び運営に関する事項を定め、施設でユニット型指定短期入所生活介護の提供に当たる従業者（以下「従業者」という。）が、利用者に対し、適正なユニット型指定短期入所生活介護を提供することを目的とする。

(運営の方針)

第2条 従業者は、利用者一人一人の意思及び人格を尊重し、利用前の居宅における生活と利用中の生活が連続したものとなるよう配慮しながら、各ユニットにおいて利用者が相互に社会的関係を築き自律的な日常生活を営むことを支援することにより、利用者の心身機能の維持並びに利用者の家族の身体的及び精神的負担の軽減を図るものとする。

(利用定員)

第3条 利用定員は空床利用型とする。

2 ユニット数及びユニットごとの利用定員は次の各号に掲げるとおりとする。

- | | |
|---------------|-------|
| 一 ユニット数 | 2ユニット |
| 二 ユニットごとの利用定員 | 10名 |

第2章 従業者の職種、員数及び職務の内容

(従業者の職種、員数及び職務内容)

第4条 従業者は、ユニット型地域密着型特別養護老人ホームの従業者と兼務するものとし、職種、員数及び職務内容は次のとおりとする。

- | | |
|-------|---------------------------------|
| 一 管理者 | 1名（ユニット型地域密着型特別養護老人ホームの施設長と兼務） |
| | 管理者は、従業者の管理及び業務の管理を一元的に行うものとする。 |
| 二 従業者 | 医師 1名（嘱託） |
| | 生活相談員 2名 |
| | 看護職員 4名以上 |
| | 介護職員 9名以上 |
| | 管理栄養士 1名 |
| | 機能訓練指導員 1名（兼務） |

従業者は、指定短期入所生活介護の提供に当たる。

- | | |
|--------|-----------------|
| 三 事務職員 | 2名 |
| | 事務職員は、必要な事務を行う。 |

第3章 サービス利用に当たっての留意事項

(内容及び手続きの説明及び同意等)

第5条 ユニット型指定短期入所生活介護事業者は、ユニット型指定短期入所生活介護の提供の開始に際し、あらかじめ、利用申込者又はその家族に対し、運営規程の概要、従業者の勤務の体制その他の利用申込者のサービスの選択に資すると認められる重要事項を記した文書を交付して説明を行い、サービスの内容及び利用期間等について利用申込者の同意を得るものとする。

- 2 ユニット型指定短期入所生活介護事業者は、正当な理由なくユニット型指定短期入所生活介護の提供を拒んではならない。
- 3 ユニット型指定短期入所生活介護事業者は、当該ユニット型指定短期入所生活介護事業所の通常の事業の実施地域等を勘案し、利用申込者に対し自ら適切なユニット型指定短期入所生活介護を提供することが困難であると認めた場合は、当該利用者に係る居宅介護支援事業者への連絡、適当な他の指定短期入所生活介護事業者等の紹介その他の必要な措置を速やかに講じるものとする。

(受給資格の確認)

第6条 ユニット型指定短期入所生活介護事業者は、当該ユニット型指定短期入所生活介護の提供を求められた場合には、その者の提示する被保険者証によって、被保険者資格、要介護認定等の有無及び要介護認定等の有効期間を確かめるものとする。

- 2 ユニット型指定短期入所生活介護事業者は、前項の被保険者証に、認定審査会の意見が記載されているときは、当該認定審査会意見に配慮して、指定短期入所生活介護を提供するように努めるものとする。

(要介護認定等の申請に係る援助)

第7条 ユニット型指定短期入所生活介護事業者は、要介護認定を受けていない利用申込者に対しては要介護認定の申請の有無を確認し、申請が行われていない場合は、利用申込者の意思を踏まえて速やかに当該申請が行われるよう必要な援助を行うものとする。

- 2 ユニット型指定短期入所生活介護事業者は、要介護認定の更新申請が遅くとも前項の有効期間満了日の30日前には行われるよう必要な援助を行うものとする。

(心身の状況等の把握)

第8条 ユニット型指定短期入所生活介護事業者は、ユニット型指定短期入所生活介護の提供に当たっては、利用者に係る居宅介護支援事業者が開催するサービス担当者会議等を通じて、利用者の心身の状況、その置かれている環境、他の保健医療サービス又は福祉サービスの利用状況等の把握に努めるものとする。

(ユニット型指定短期入所生活介護の開始及び終了)

第9条 ユニット型指定短期入所生活介護事業者は、利用者の心身の状況により、若しくはその家族の疾病、冠婚葬祭、出張等の理由により、又は利用者の家族の身体的及び精神的な負担の軽減等を図るために、一時的に居宅において日常生活を営むのに支障があるものを対象に、指定短期入所生活介護を提供するものとする。

- 2 ユニット型指定短期入所生活介護事業者は、居宅介護支援事業者その他保健医療サービス又は福祉サービスを提供する者との密接な連携により、ユニット型指定短期入所生活介護の提供の開始前から終了後に至るまで利用者が継続的に保健医療サービス又は福祉サービスを利用できるよう必要な援助に努めるものとする。

(サービスの提供の記録)

第10条 ユニット型指定短期入所生活介護事業者は、ユニット型指定短期入所生活介護を提供した際には、提供した具体的なサービスの内容を記録するとともに、利用者からの申出があった場合には、文書の交付その他適切な方法によりその情報を利用者に対して提供するものとする。

第4章 ユニット型指定短期入所生活介護の内容及び利用料その他の費用の額

(ユニット型指定短期入所生活介護の取扱方針)

第11条 ユニット型指定短期入所生活介護事業者は、利用者がその有する能力に応じて、自らの生活様式及び生活習慣に沿って自律的な日常生活を営むことができるようにするため、利用者の日常生活上の活動について必要な援助を行うことにより、利用者の日常生活を支援するものとする。

- 2 ユニット型指定短期入所生活介護は、各ユニットにおいて利用者がそれぞれ役割を持って生活を営むことができるよう配慮して行うものとする。

- 3 ユニット型指定短期入所生活介護は、利用者のプライバシーの確保に配慮して行うものとする。
- 4 ユニット型指定短期入所生活介護は、利用者の自立した生活を支援することを基本として、利用者の要介護状態の軽減又は悪化の防止に資するよう、その者の心身の状況等を常に把握しながら、適切に行うものとする。
- 5 従業者は、ユニット型指定短期入所生活介護の提供に当たっては、利用者又はその家族に対し、サービスの提供方法等について、理解しやすいように説明を行うものとする。
- 6 ユニット型指定短期入所生活介護事業者は、ユニット型指定短期入所生活介護の提供に当たっては、当該利用者又は他の利用者が生命又は身体を保護するため緊急やむを得ない場合を除き、身体拘束その他利用者の行動を制限する行為を行ってはならない。
- 7 ユニット型指定短期入所生活介護事業者は、前項の身体的拘束等を行う場合には、その態様及び時間、その際の利用者の心身の状況並びに緊急やむを得ない理由を記録しなければならない。
- 8 ユニット型指定短期入所生活介護事業者は、自らその提供するユニット型指定短期入所生活介護の質の評価を行い、常にその改善を図るものとする。
- 9 ユニット型指定短期入所生活介護事業者は、身体的拘束適正化検討委員会（テレビ電話装置等を活用して行うことができるものとする。）を独立して設置し、身体拘束廃止に関する指針を作成し、身体的拘束等の適正化のための研修を定期的に（年2回以上）開催する。また、新規採用時には必ず身体的拘束等の適正化の研修を実施するものとする。

（短期入所生活介護計画）

- 第12条 管理者は、相当期間以上にわたり継続して入所することが予定される利用者については、利用者の心身の状況、希望及びその置かれている環境を踏まえて、ユニット型指定短期入所生活介護の提供の開始前から終了後に至るまでの利用者が利用するサービスの継続性に配慮して、他の従業者と協議の上、サービスの目標、当該目標を達成するための具体的なサービスの内容等を記載した短期入所生活介護計画を作成するものとする。
- 2 短期入所生活介護計画は、既に居宅サービス計画が作成されている場合は、当該計画の内容に沿って作成するものとする。
 - 3 管理者は、短期入所生活介護計画の作成に当たっては、その内容について利用者又はその家族に対して説明し、利用者の同意を得るものとする。
 - 4 管理者は、短期入所生活介護計画を作成した際には、当該計画を利用者に交付するものとする。

（介護）

- 第13条 介護は、各ユニットにおいて利用者が相互に社会的関係を築き、自律的な日常生活を営むことを支援するよう、利用者の心身の状況等に応じ、次の各号に掲げる事項を適切な技術をもって行うものとする。
- 一 日常生活における家事を、利用者がその心身の状況等に応じて、それぞれの役割を持って行うよう適切な支援
 - 二 適切な方法による入浴の機会の提供（入浴がさせられないときは清拭）
 - 三 排泄の自立についての必要な支援
 - 四 おむつを使用せざるを得ない利用者について排泄の自立を図りつつ、そのおむつの適切な取り替え
 - 五 離床、着替え、整容等の日常生活上の行為の適切な支援

（食事の提供）

- 第14条 ユニット型指定短期入所生活介護事業者は、栄養並びに利用者の心身の状況及び嗜好を考慮した食事を、適切な時間に提供するものとする。
- 2 ユニット型指定短期入所生活介護事業者は、利用者の心身の状況に応じて、適切な方法により、食事の自立について必要な支援を行うものとする。

- 3 ユニット型指定短期入所生活介護事業者は、利用者の生活習慣を尊重した適切な時間に食事を提供するとともに、利用者がその心身の状況に応じてできる限り自立して食事を摂ることができるよう必要な時間を確保するものとする。
- 4 ユニット型指定短期入所生活介護事業者は、利用者が相互に社会的関係を築くことができるよう、その意思を尊重しつつ、利用者が共同生活室で食事を摂ることを支援するものとする。

(機能訓練)

第15条 ユニット型指定短期入所生活介護事業者は、利用者の心身状況等を踏まえ、必要に応じて日常生活を送る上で必要な生活機能の改善又は維持のための機能訓練を行うものとする。

(健康管理)

第16条 医師及び看護職員は、常に利用者の健康の状況に注意するとともに、健康保持のための適切な措置をとらなければならない。

- 2 従業者は、利用者に病状の急変が生じた場合その他必要な場合は、速やかに主治の医師又はあらかじめ指定短期入所生活介護事業者が定めた協力医療機関への連絡を行う等の必要な措置を講じるものとする。

(相談及び援助)

第17条 ユニット型指定短期入所生活介護事業者は、常に利用者の心身の状況、その置かれている環境等の的確な把握に努め、利用者又はその家族に対し、その相談に適切に応じるとともに、必要な助言その他の援助を行うものとする。

(その他のサービスの提供)

第18条 ユニット型指定短期入所生活介護事業者は、利用者の嗜好に応じた趣味、教養又は娯楽に係る活動の機会を提供するとともに、利用者が自立的に行うこれらの活動を支援するものとする。

- 2 ユニット型指定短期入所生活介護事業者は、常に利用者の家族との連携を図るよう努めるものとする。

(利用料等の受領)

第19条 ユニット型指定短期入所生活介護事業者は、法定代理受領サービスに該当するユニット型指定短期入所生活介護を提供した際には、その利用者から利用料の一部として、当該ユニット型指定短期入所生活介護に係る居宅サービス費用基準額から当該ユニット型指定短期入所生活介護事業者に支払われる居宅介護サービス費の額を控除して得た額の支払いを受けるものとする。

- 2 ユニット型指定短期入所生活介護事業者は、前項の支払を受ける額のほか、次の各号に掲げる費用の額の支払いを利用者から受けることができる。

- 一 食事の提供に要する費用
- 二 滞在に要する費用
- 三 利用者が選定する特別な居室の提供を行ったことに伴い必要となる費用
- 四 利用者が選定する特別な食事の提供を行ったことに伴い必要となる費用
- 五 通常の送迎の実施地域を超えて行う送迎の費用
- 六 理美容代

七 その他ユニット型指定短期入所生活介護において提供される便宜のうち、日常生活においても通常必要となるものに係る費用であって、その利用者に負担させることが適当であると認められるもの

- 3 前項第七号に規定する便宜の具体的な内容及び前項各号に掲げる事項の具体的な費用については、管理者が別に定める。

- 4 第2項の費用の額に係るサービスの提供に当たっては、あらかじめ、利用者又はその家族に対し、当該サービスの内容及び費用について文書により説明を行い、利用者の同意を得るものとする。

- 5 ユニット型指定短期入所生活介護事業者は、法定代理サービスに該当しないユニット型指定短期入所生活介護に係る利用料の支払いを受けた場合は、提供したユニット型指定短期入所生活介護の内容、費用の額、その他必要と認められる事項を記載したサービス提供証明書を利用者に対して交付するものとする。

(通常を送迎の実施地域)

第20条 前条第2項第五号に規定する通常を送迎の実施地域は、川場村、みなかみ町、昭和村、片品村、沼田市区域とする。

第6章 緊急時等の対応

(緊急時等の対応)

- 第21条 施設は、緊急時の注意事項や病状等についての情報共有の方法、曜日や時間帯ごとの配置医師との連携方法や診察を依頼するタイミング等、入所者の病状の急変等に備えるための対応方針を定める。
- 2 施設は、前項の配置医師及び協力病院等の協力を得て、年1回以上、緊急時等における対応方法の見直しを行い、必要に応じて緊急時等における対応方法の変更を行なうものとする。

第7章 非常災害対策

(非常災害対策)

- 第22条 ユニット型指定短期入所生活介護事業者は、非常災害に関する具体的計画を立て、非常災害時の関係機関への通報及び連携体制を整備し、それらを定期的に職員に周知しなければならない。
- 2 ユニット型指定短期入所生活介護事業者は、非常災害対策に備えるため、防災及び避難に関する計画を作成し、利用者及び従業員に対し周知徹底を図るため、年2回以上避難、その他必要な研修及び訓練等を実施するものとする。
- 3 入所者は、前項の対策に可能な限り協力するものとする。
- 4 施設は、前項に規定する訓練の実施に当たって、地域住民、消防関係者の参加が得られるよう連携に努めるものとする。
- 5 平常時の対応(必要品の備蓄など)、緊急時の対応、他施設及び地域との連携に関する業務継続計画を策定するものとする。

第7章 虐待の防止のための措置に関する事項

(虐待防止の対応)

- 第23条 ユニット型指定短期入所生活介護事業者は、虐待又は虐待が疑われる事案の発生を防止するため、次の各号に定める措置を講ずるものとする。
 - 一 虐待の防止のための対策を検討する虐待防止検討委員会(テレビ電話装置等を活用して行うことができるものとする。)を設置し、定期的に開催するとともに、その結果について、介護職員等その他の職員に周知徹底を行うものとする。また、その責任者は施設長とする。
 - 二 虐待防止の指針を整備し、必要に応じ見直しを行うものとする。
 - 三 介護職員その他の職員に対し、虐待防止のための研修を定期的の実施するものとする。
 - 四 虐待又は虐待が疑われる事案が発生した場合には、責任者は速やかに市町村等関係者に報告を行い、事実確認のために協力する。また、当該事案の発生の原因と再発防止策について、速やかに虐待防止検討委員会にて協議し、その内容について、職員に周知するとともに、市町村等関係者に報告を行い、再発防止に努めるものとする。
 - 五 上記の措置を適切に実施するための責任者を置くものとする。

第8章 その他運営に関する重要事項

(利用者に関する市町村への通知)

第24条 ユニット型指定短期入所生活介護事業者は、ユニット型指定短期入所生活介護を受けている利用者が次の各号のいずれかに該当する場合は、遅滞なく、意見を付してその旨を市町村に通知するものとする。

- 一 正当な理由なしにユニット型指定短期入所生活介護の利用に関する指示に従わないことにより、要介護状態等の程度を増進させたと認められるとき。
- 二 偽りその他不正な行為によって保険給付を受け、又は受けようとしたとき。

(勤務体制の確保等)

第25条 ユニット型指定短期入所生活介護事業者は、利用者に対し適切なユニット型指定短期入所生活介護を提供できるよう、従業者の勤務体制を定めておくものとする。

- 2 ユニット型指定短期入所生活介護事業者は、ユニット型指定短期入所生活介護事業所の従業者によってユニット型指定短期入所生活介護を提供するものとする。ただし、利用者の処遇に直接影響を及ぼさない業務については、この限りでない。
- 3 ユニット型指定短期入所生活介護事業者は、従業者の資質の向上のために、その研修の機会を確保するものとする。
- 4 ユニット型指定短期入所生活介護事業者は、入所者に対する処遇に直接携わる職員のうち(医師、看護師、准看護師、介護福祉士、介護支援専門員、介護保険法第8条第2項に規定する政令で定める者等の資格を有する者その他これに類する者を除く。)に対し、認知症介護に係る基礎的な研修を受講させるために必要な措置を講じるものとする。
- 5 施設は、現場における課題を抽出及び分析した上で、事業所の状況に応じた必要な対応を検討し、利用者の尊厳や安全性を確保しながら事業所全体で継続的に業務改善に取り組む環境を整備するため、入所者の安全並びに介護サービスの質の確保及び職員の負担軽減に資する方策を検討するための委員会を設置するものとする。

(感染症対策等)

第26条 ユニット型指定短期入所生活介護事業者は、利用者の使用する施設、食器その他の設備又は飲用に供する水について、衛生的な管理に努め、又は衛生上必要な措置を講じなければならない。

- 2 ユニット型指定短期入所生活介護事業者は、入所者の保健衛生の維持向上及び施設における感染症又は食中毒の発生又はまん延の防止を図るため、次の各号に掲げる措置を講じるものとする。
 - 一 施設における感染症又は食中毒の予防及びまん延の防止のための対策委員会(テレビ電話装置等を活用して行うことができるものとする。)を定期的で開催するとともに、その結果について、介護職員その他の職員に対し、周知徹底を図るものとする。
 - 二 感染症及び食中毒の予防及びまん延の防止のための指針の整備
 - 三 施設において、介護職員その他の職員に対し、感染症及び食中毒の予防並びにまん延の防止のための研修及び訓練を定期的(年2回以上)実施するものとする。
 - 四 前各号に掲げるもののほか、別に厚生労働大臣が定める感染症又は食中毒の発生が疑われる際の対処等に関する手順に沿った対応を行うものとする。
 - 五 平時からの備え(備蓄品の確保など)、初動対応、感染拡大防止体制の確立に関する業務継続計画を策定するものとする。

(掲示)

第27条 ユニット型指定短期入所生活介護事業者は、ユニット型指定短期入所生活介護事業所の見やすい場所に、運営規程の概要、従業者の勤務の体制、協力病院、利用料、苦情解決の手順その他のサービスの選択に資すると認められる重要事項を掲示するものとする。

- 2 前項に定める他、インターネット上で情報の閲覧が完結するよう、運営規程の概要等の重要事項について、ウェブサイトに掲載するものとする。

(秘密の保持等)

第28条 従業者は、正当な理由がなく、その業務上知り得た利用者又はその家族の秘密を漏らしてはならない。このことは、退職者についても同様であるものとする。退職者に対する秘密の保持に関する措置については、別に定める。

2 ユニット型指定短期入所生活介護事業者は、サービス担当者会議等において、利用者の個人情報を用いる場合は利用者の同意を、利用者の家族の個人情報を用いる場合は当該家族の同意を、あらかじめ文書により得ておくものとする。

(苦情等への対応)

第29条 ユニット型指定短期入所生活介護事業者は、提供したユニット型指定短期入所生活介護に係る利用者及びその家族からの苦情に迅速かつ適切に対応するために、苦情を受け付けるための窓口を設置する等の必要な措置を講じるものとする。

2 前項の苦情を受け付けた場合には、当該苦情の内容等を記録するものとする。

3 ユニット型指定短期入所生活介護事業者は、利用者及びその家族からの苦情に関して市町村及び国民健康保険団体連合会が実施する調査等に協力するとともに、指導又は助言を受けた場合には必要な改善を行うものとする。

(地域等との連携)

第30条 ユニット型指定短期入所生活介護の事業の運営に当たっては、地域住民又はその自発的な活動等との連携及び協力を行う等の地域との交流に努めるものとする。

(事故発生の防止及び発生時の対応)

第31条 ユニット型指定短期入所生活介護事業者は、事故の発生又はその再発を防止するため、次の各号に定める措置を講ずるものとする。

一 事故が発生した場合の対応、次号に規定する報告の方法等が記載された事故発生の防止のための指針の整備

二 事故が発生した場合又はそれに至る危険性がある事態が生じた場合に、当該事実が報告され、その分析を通じた改善策に従業者に周知徹底する体制の整備

三 事故発生の防止のための委員会（テレビ電話装置等を活用して行うことができるものとする。）及び職員に対する研修（年2回以上）を定期的に行うものとする。

四 事故発生の防止及び発生時の対応に関する措置を適切に実施するための担当者の設置

2 ユニット型指定短期入所生活介護事業者は、施設サービスの提供により事故が発生した場合には速やかに市町村及び入所者の家族、居宅介護支援事業者等に連絡するとともに、必要な措置を講じるものとする。

3 前項において、賠償すべき事故が発生した場合には速やかに損害賠償を行うものとする。

(記録の整備)

第32条 ユニット型指定短期入所生活介護事業者は、従業者、設備、備品及び会計に関する諸記録を整備するものとする。

2 ユニット型指定短期入所生活介護事業者は、利用者に対するユニット型指定短期入所生活介護の提供に関する次の各号に掲げる記録を整備し、その完結の日から5年間保存するものとする。

一 短期入所生活介護計画

二 第10条に規定する提供した具体的なサービスの内容等の記録

三 第11条第6項に規定する身体拘束等の態様及び時間、その際の利用者の心身の状況並びに緊急やむを得ない理由の記録

四 第23条に規定する市町村への通知に係る記録

五 第28条第2項に規定する苦情の内容等の記録

六 第30条第2項に規定する事故の状況及び事故に際して採った処置の記録

(

ハラスメント対策)

第33条 ユニット型指定短期入所生活介護事業者は、適切なサービスの提供を確保する観点から、職場において行われる性的な言動又は優越的な関係を背景とした言動であつて業務上必要かつ相当な範囲を超えたものにより従業者の就業環境が害されることを防止するための方針の明確化等の必要な措置を講じるものとする。

第10章 雑 則

(その他)

第34条 この規程に定める事項の外、運営に関する重要事項は理事長と管理者との協議に基づいて定めるものとする。

附 則

この規程は、平成26年 4月 1日から施行する。

平成27年 8月 1日改定

平成30年 4月 1日改定

平成元年10月 1日改定

令和3年 4月 1日改定

令和3年 8月16日改定

令和4年10月 1日改定

令和5年 4月 1日改定

令和5年 7月 1日改定

令和6年 4月 1日改定

別表（第19条関係）

<併設型ユニット型短期入生活介護：ユニット個室：1日あたり>

令和6年8月改定

要介護状態区分		要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
介護報酬(基本報酬)… a①【1日～60日】		7,040円	7,720円	8,470円	9,180円	9,870円
保険給付額…b	1割負担	6,336円	6,948円	7,623円	8,262円	8,883円
	2割負担	5,632円	6,176円	6,776円	7,344円	7,896円
	3割負担	4,928円	5,404円	5,929円	6,426円	6,909円
自己負担額…(a①-b)	1割負担	704円	772円	847円	918円	987円
	2割負担	1,408円	1,544円	1,694円	1,836円	1,974円
	3割負担	2,112円	2,316円	2,541円	2,754円	2,961円
介護報酬(基本報酬)… a②【61日～】		6,700円	7,400円	8,150円	8,860円	9,550円
保険給付額…b	1割負担	6,030円	6,660円	7,335円	7,974円	8,595円
	2割負担	5,360円	5,920円	6,520円	7,088円	7,640円
	3割負担	4,690円	5,180円	5,705円	6,202円	6,685円
自己負担額…(a②-b)	1割負担	670円	740円	815円	886円	955円
	2割負担	1,340円	1,480円	1,630円	1,772円	1,910円
	3割負担	2,010円	2,220円	2,445円	2,658円	2,865円
以下の各種加算については、ご利用されるサービスによって加算・減算されます。						
(各種加算)		1割負担	2割負担	3割負担		
生活機能向上連携加算Ⅱ(1月)		200円	400円	600円		
看護体制加算Ⅰ		4円	8円	12円		
看護体制加算Ⅱ		8円	16円	24円		
夜勤職員配置加算(Ⅳ)		20円	40円	60円		
認知症行動・心理症状緊急対応加算		200円	400円	600円		
若年性認知症受入加算		120円	240円	360円		
送迎加算(片道)		184円	368円	552円		
緊急短期入所受入加算		90円	180円	270円		
療養食加算(回)		8円	16円	24円		
看取り連携体制加算		64円	128円	192円		
サービス提供体制強化加算		22円	44円	66円		
生産性向上推進体制加算(Ⅱ)(1月)		10円	20円	30円		
長期利用者減算	31日～60日	基本報酬a①より△30単位/日(1単位は10円)				
介護職員等処遇改善加算(Ⅰ)		1月あたりの介護報酬の総単位数に14%を加算(1単位は10円)				
居住費(自己負担額)						
被保険第1段階		880円				
被保険第2段階		880円				
被保険第3段階		1,370円				
被保険第4段階		2,156円				
食費(自己負担額)						
被保険第1段階		300円				
被保険第2段階		600円				
被保険第3段階 ①		1,000円				
被保険第3段階 ②		1,300円				
被保険第4段階		1,840円 (朝食540円/昼食750円/夕食550円)				
その他の費用	特別な食事の費用			実費		
	美容容代			実費		
	複写代(コピー代)			10円/枚		
	家電持込料(1台につき)			55円/日		